

4. 暫間修復

イントロダクション

PEEK製のテンポラリーアバットメント**(3)**は審美的な即時修復用または長期の暫間修復に使用されます。

審美的で且つ咬合機能させない即時修復を伴うインプラント即時埋入の利点は特に審美ゾーンにおいて歯周またはインプラント周囲組織がサポートされることにあります。

インプラントおよびインプラント周囲組織の十分な治癒期間(オッセオインテグレーション)を経過後に最終補綴のための印象を採得します。



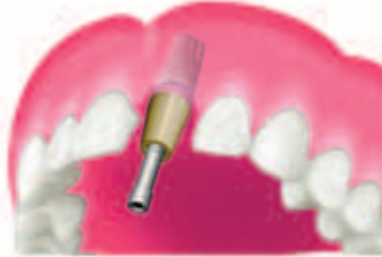
システム構成品

直径3.3mm以外のインプラントには対応するPEEK製のテンポラリーアバットメント**(3)**が用意されています。フィクシングスクリュー**(5)**はヘックスドライバー**(1+2)**で手締めします。

フィクシングスクリュー**(5)**はテンポラリーアバットメントに付属されています。



6



7

テンポラリーアバットメントの形成

テンポラリーアバットメントをインプラント体に挿入し、カムがカム溝に収まるまで回しますとカチッと音がして確実に装着されたことが確認できます**(6+7)**。

フィクシングスクリューを手締めで装着します。マージンを歯肉ラインに合わせてマークします**(8)**。



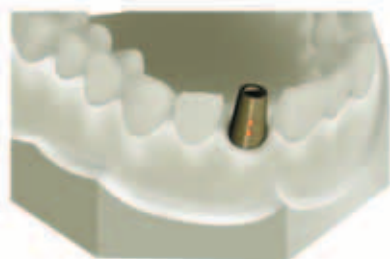
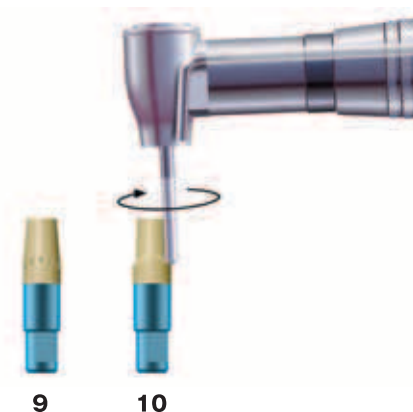
8

対象: 歯科医師/歯科技工士

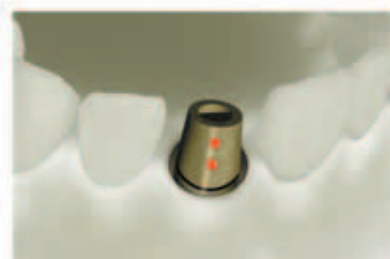
テンポラリーアバットメントの形成は口腔外で行います。形成時の保持にはアバットメント形成ホルダーかインプラントアナログを使用します(10)。歯肉形態に沿ったマーキング(9)に合わせて、通常の歯周補綴と同様に形成します(10)。

この形成にはハイスピードダイヤモンドバーを無注水、低加圧で使用します。シャンファー形態やクラウンマージンは審美的な即時修復では歯肉マージンと同位置に、即時以外の修復の場合はインプラント周囲組織の解剖学的立上がり形態を形成するために1-1.5mm歯肉縁下に位置させます。挿入位置が容易に判別できるようにアバットメントの唇側面にマーク(13)を付与します。

技工所での暫間補綴物の作製を容易にするために、インプラントの埋入直後または二次手術での開窓直後にカムログ印象システムで印象を採得します。マスターモデルの作製の後、解剖学的要件にそってアバットメントを形成し、暫間補綴物を作製します(12+13)。長期暫間デンチャーと同じように、必要に応じて(例えば多数歯ブリッジのケース)金属による補強を付加します。



11



12



13

暫間クラウン/ブリッジ

既製のクラウンや患者が使用しているクラウンをアクリルレジンでライニングして装着します (14)。

クラウンの挿入方向は隣在歯によって決まりますが、この方向がインプラントのスクリー穴とぴったり合うことはほとんどありません。このような理由からクラウンとアバットメントは別々に作製します。トリミングは口腔外で行います。その他テンポラリー修復の作製に関する全ての手順はクラウン・ブリッジ補綴の場合と同様です。

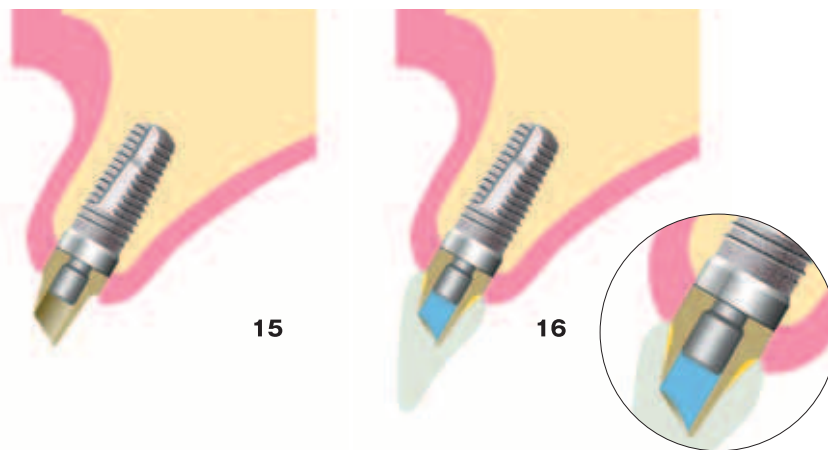


14

暫間補綴物の装着

口腔内への装着前に部品は全て洗浄消毒します。インプラント体の内部に水をスプレーし残存物を除去し、エアーで乾燥させます。テンポラリーアバットメントをインプラント体に挿入し、カムがカム溝にカチッと音がするまで回して確実に装着します (15)。

注意深くフィクシングスクリューを手締めし、スクリューホールは軟性レジンで封鎖します (16)。この時コンポジットレジンを使用しません。なぜならスクリューに再アクセスする場合にドリル等を使用しなければならなくなるからです (17)。スクリューホールにレジンを入れ過ぎるとクラウンが適合しませんので、余剰分を除去してください。



15

16



17

文献

Sofortimplantation und Sofortbelastung.
Das Einzelzahn-Sofortimplantat mit provisorischer Versorgung
Nagel, Rainer; Ackermann, Karl-Ludwig; Kirsch, Axel
ZMK 17, 1-2/2000